

すみだ景観フォーラム会報 ~ 第 7 号 ~

発行元(すみだ景観フォーラム事務局)
 墨田区都市計画部都市計画課
 墨田区吾妻橋1丁目23番20号
 電話: 03-5608-6266 / F A X : 03-5608-6409
 メール: TOSHIKEIKAKU@city.sumida.lg.jp
 <会員数: 69名(平成27年4月末現在)>



平成 26 年度は「シンポジウム」を行いました！

すみだの景観をより一層、個性ある魅力的なものとしていくためには、区民の自主的な景観への取り組みが重要です。そこで景観に関する意見交換や共通認識を通して目指したい景観を導き出し、身近なことから取り組むためのきっかけの場として、「すみだ景観フォーラム」を実施しています。

すみだ景観フォーラムでは、平成20年度より、実行委員を中心として様々なイベントを開催してきました。平成26年度の「すみだ景観フォーラム」では『残したいすみだの景観 商店街はまちの景観(かお)~それでも商店街は必要だ!!~』をテーマに掲げ、区内外の商店街を訪れ、街歩きや調査を行いました。その結果を基にシンポジウムを開催し、会場の皆様と活発な意見交換を行いました。

シンポジウムではすみだ景観フォーラムの会員のみならず、区内外から多くのご参加をいただき、ありがとうございました。イベントの概要については、次のページから紹介します。

実行委員の声

戦後の下町商店街や路地裏では、朝から晩まで油に汚れながら働くお父さんお母さんの声、仕事場の音が音楽のように聞こえてきました。

夕日が沈むころになると、「たけし、ご飯だよ!」、「のぼる~、帰っておいで!」とお母さんたちの声があちこちから聞こえてきました。そんなお母さんたちの夕食の支度を手伝ってくれる下町の商店街はまさに戦後の「家内工業の台所」の役目を担っていたと思います。

また下町の商店街の賑わいは身動きできないほど人が溢れていました。今は時代と共にその役目も薄れ、通勤帰りにコンビニで食事の支度をするようになるなど、下町の商店街の役割も変わりつつあると感じました。

映画「Always 三丁目の夕日」の光景が心の中での景観として見え隠れする思いを、つれづれの時、その思いを抱き、下町の商店街を散策したいと思い、テーマを商店街としました。このテーマで皆様方とお話しあえればと今回のシンポジウムを企画いたしました。

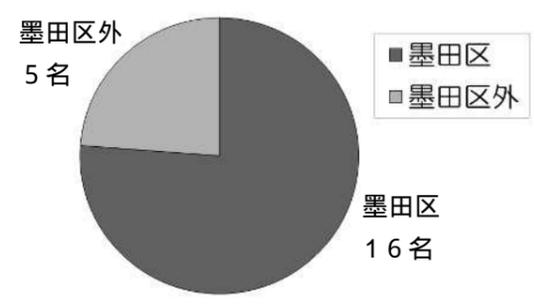
すみだ景観フォーラム実行委員 笠貫 昇

『すみだ景観フォーラム』とは

区民のみなさんが、すみだの景観について意見交換・共通認識をもつためのきっかけの場です！どなたでも参加可能ですのでご希望の方は事務局までご連絡ください。

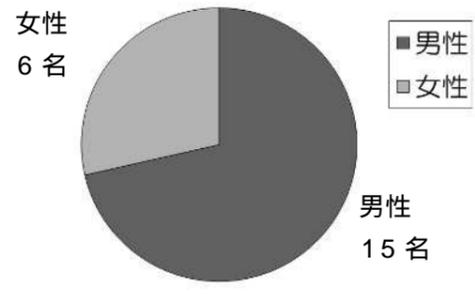
参加者アンケート結果 (回答者数 21 名)

お住まい

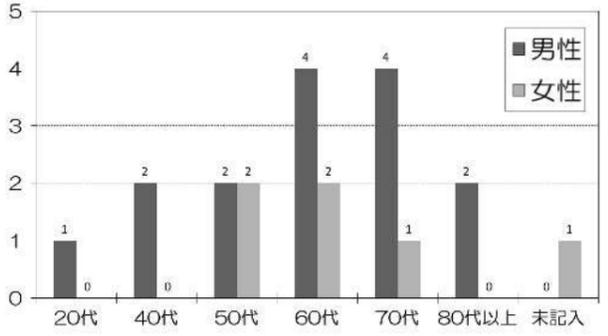


墨田区外: 北区、江戸川区、中野区、市川市

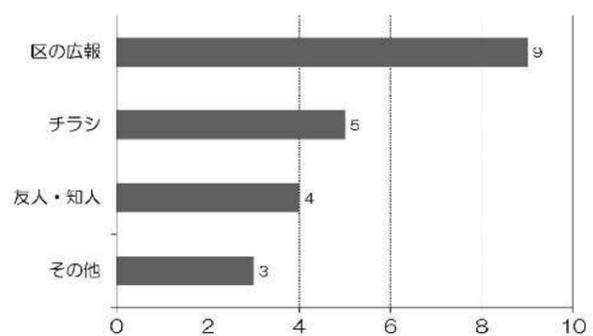
男女比



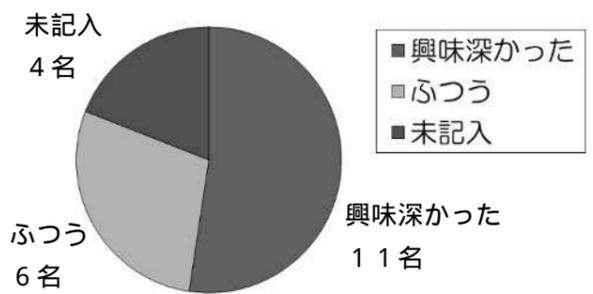
年齢別



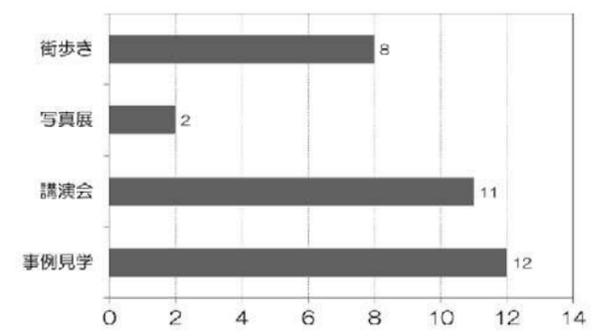
イベントを何で知りましたか。



内容はいかがでしたか。



今後参加したいイベントは何ですか。(複数回答)



<フォーラムについての感想>

- ・景観と商店街を結びつけることに感心した。よいテーマでした。
- ・商店街を多面的な視点で講演されて勉強になった。
- ・自分の商店街で利用できるか考えていきたい。
- ・来場者のみなさまのすみだの景観への愛情が感じられて良かった。
- ・商店街調査は単に街歩きや景観だけでなく、ヒアリング等と行ってもっと掘り下げて欲しかった。もっと地元の人を見てほしい。
- ・商店街の活性化が話題の中心に感じた。商店街と地域の景観形成の関係でも整理してもらえるとよかった。

商店街はまちの景観（かお）

～それでも商店街は必要だ！！～

今回の景観フォーラムは、墨田区の景観を特徴づける要素の一つである「商店街」に焦点を当て、昔を偲びながら現在の商店街の状況、将来への展望を含めた基調講演・パネルディスカッションを行い、すみだのまちをより深く学びました。

概要

- 日時 平成27年3月1日（日）午後1時30分から午後4時40分まで
- 内容 1. 基調講演 服部 圭郎 氏（明治学院大学経済学部教授）
2. 商店街見聞調査報告
報告者 露木 尚文 氏（すみだ景観フォーラム実行委員）
小池 和史 氏（すみだ景観フォーラム実行委員）
3. パネルディスカッション
コーディネーター 服部 圭郎 氏（明治学院大学経済学部教授）
パネリスト 大和 和道 氏（下町人情キラキラ橋商店街事務局長）
今井 晴香 氏（明治学院大学経済学部学生）
笠貫 昇 氏（すみだ景観フォーラム実行委員）
露木 尚文 氏（すみだ景観フォーラム実行委員）



基調講演「街の魅力 商店街の魅力」

【講演者】服部圭郎 氏（明治学院大学経済学部教授）

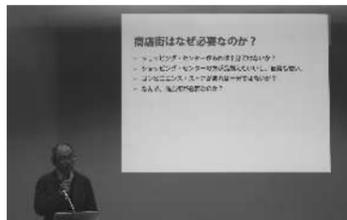


ショッピングセンターはとても便利ですが、景観として地域のアイデンティティをまったく反映させていません。むしろ地域性のなさをむしろ意識してデザインしているようにも思えます。

一方、商店街は街を楽しむための機会や起業をする機会を提供してくれます。また街育とでも言うべき社会教育の場としての意味もあるため、やはり商店街は必要です。

<基調講演の感想>

- ・商店街を多面的な視点で考えさせられました。
- ・服部先生の地域性のある景観、古い体質だけにとらわれず新しい可能性の苗床という言葉が商店街の大切さと感じました。
- ・イベントのできる商店街があることが重要であると再確認しました。



【クイズです！】

コンビニがすぐ店仕舞いをしてしまう東京にある商店街はどこでしょう！！

【答え】東十条商店街（コンビニは惣菜とお弁当で稼いでいます。商店街のお総菜の方がコンビニよりも安く、美味しいため、コンビニは店仕舞いしてしまいます。）

商店街見聞調査の報告

【報告1】区内の商店街 露木 尚文 氏（すみだ景観フォーラム実行委員）



区内にはキラキラ橋銀座商店街をはじめとする商店街がたくさんあります。商店の連続性がなくなった場所もありますが、道路の幅と大きな関係があるのかもしれませんが。

- 商店街の連続性がない中でも個人商店ならではの工夫がたくさんあることに気付かされました。“すみだらしい”景観が実現することを期待しています。（参加者より）

【報告2】区外の商店街 小池 和史 氏（すみだ景観フォーラム実行委員）



区外の商店街の事例として砂町銀座商店街について紹介しました。七夕の時期は大きな七夕飾りがあります。実はこの飾りは平塚の七夕祭りの飾りを使用しています！！

- 以前大島に住んでいたのでよく行きましたが、平塚の七夕祭りとの関係があったのは初めて知りました。（参加者より）

パネルディスカッション「それでも商店街は必要だ！！」

【会場からの質問】

商店街を分類分けするとどういった分類になりますか？

【パネリスト 大和氏より】

商店街は大きく分けるとタイプが3つあると言われています。

広域型商店街

これは全国各地から来訪者がたくさんくる商店街で、例えば浅草や上野のアメ横です。

地域型商店街

行政区域内の方が訪れる商店街です。例えば下北沢商店街の来訪者の多くは世田谷区の方です。

地域密着型商店街

駅から少し離れたところにある商店街です。アーケードなどのある商店街ですが、頑張っている商店街は少ないのが現状です。砂町銀座商店街はここに分類されます。

